# 開校記念日に寄せて

北海道札幌北高等学校

令和二（二〇二〇）年五月二十日に本校は百十九回目の開校記念日を迎えます。

この機会に、明治三十五（一九〇二）年五月二十日に思いを馳せ、本校の歴史と重みについて考えてみましょう。

## 伝説の行事　遊戯会

遊戯会（体育大会）の第一回は明治三七年五月二〇日で以後毎年五月中に行われた。最初のころは旧校舎校庭で外部から見えぬように幕などで遮蔽して行われ、徒競走などは東南西の順に旧校舎の廊下を一巡して走ったという。しかし、大正期に入ってからは円山坂下グラウンドで行われ、運動会と称するようになった。服装は明治期は髪は桃割れ、束髪で筒袖、元禄袖に袴をひるがえしていたが、大正になると体操袴という軽装になった。

「遊戯会」について当時の女学生たちは「札幌文庫三五女学校物語」の中で次のように語っている。

北大や師範の学生が見に来るのを拒むために狭い校庭でこっそりとやるのです。父母は屋内体育館の中から窓越しにみていました。運動会といえば、ある生徒が一等で走ってきたのですが来賓の目の前で転んでしまい、袴がすっかりめくりあがってしまうことがありましてね、まあ、何もかも見えてしまって、それからはパンツを履くよう、になったのです。

（庁立高女明治三九～四三年　塚本きいの）

明治44年頃の大運動会

運動会も非公開でした。体操場と垣根の間の小さな庭がグランドで、紅白の幕を張り、父兄しか見物できないことになっていました。今のようにレコードをかけてスピーカーで行進曲ってわけにはいきませんから、楽隊も必要になりますが、外の方に頼むと男の人が入ることになるから、それも駄目でした。大太鼓、民笛（竹笛）、手風琴（アコーディオン）、シンバル、そんなもので生徒が楽隊を組織したんですよ。ずいぶん学校も気を使っていましたけれど、それでも垣根の向こうから当時の大学生や近所の人たちが多勢のぞいていました。

（庁立高女明治四〇～四四年・四五年補習科終了　三浦セイ）

その後、「遊戯会」は運動会、体育大会などと名称を変えて、現在に伝わっている。

【九十周年記念誌より】

## 校舎の変遷

最初の校舎は当時札幌区北三条西七丁目一番地にあった北水協会の建物（現在の道庁西正門やや植物園よりの所にあった）を仮校舎として使用していた。第一回入学式はこの仮校舎二階で明治三五年五月二十日午前八時より挙行された。

その後、校地及び校舎については、校地のうち一七〇〇余坪は札幌区より寄付を受け、明治三五年から三ケ年の継続事業とし、札幌区北二条西十一丁目（現在の大通小学校）に校舎を起工し、同年十月二七日一部校舎が竣功したので仮校舎から移転、翌三六年八月十五日、第二年度分校舎予定工事が竣功した。しかし、その後第三年度分は日露戦争のため中止となり明治末年まで増築工事はなかったという。

昭和二年、創立二五周年を迎え、同時に校舎改築の話が出始めた。木造建築の寿命は二十年と言われており、三十周年記念の後、母の会、同窓会が道庁に陳情、その結果昭和十年四十万円の予算が、一応認められたが、折から本道は凶作、大水害に見舞われた。当時の佐上長官の決で、昭和十年は空知農学校の改築、本校は翌十一年ということになった。翌十一年、本道では大演習が行われ、大本営を北大農学部中央講堂におくなどがあって改築はさらに一年延期された。翌十二年には七月七日蘆溝橋に端を発する日中戦争が始まりとうとう改築の機会は失われてしまった。

昭和二三年、北海道庁札幌高等女学校から北海道立札幌女子高等学校、その後、昭和二五年四月には、男女共学の新制高校である北海道札幌北高等学校として再出発をした。

校舎は高女のものを用いていた。現在の校舎の位置に移転する昭和二九年七月までの四年間、つぎはぎだらけの老朽甚だしいところで過ごしたのだが、この古校舎を新築移転後市に譲ったところ古材にしかならないはずなのに中学校としてそのまま使用し、北高生がこんなに汚していったととんでもない誤解を受けたようである。

新校舎の特色としては中央部に不燃質鉄筋三階建をすえて、その三階を図書室にすること、本校舎が全体としてL字形で風に対して堅牢であること、生徒の玄関が東南隅にあって出入りに便利であること、屋内体育館は、一四メートルでバスケット二面が平行して行えること等があげられる。

昭和二八年七月二一日に第一期工事が竣功、つづいて二九年五月二四日に第二期工事が竣功し、授業可能の態勢となり七月一七日、一八日の二日間、待ちに待った移転作業が行われた。三〇年八月に第三期工事竣功、三二年一二月、さらに三三年三月に一部増築され校舎の全容が完成したのである。

しかし、昭和四五年三月十一日、五月二五日、五月二八日と三回もの火災が起きる。

火災後は間仕切りした体育館や仮校舎で授業が行われた。

昭和四八年十二月二十日より新校舎（現在の校舎）への移転作業が始まった。

平成十四年校舎改築の予定のところ、陸上グラウンドより約四千年前と推定される縄文土器が出土し、遺跡発掘のため延期され、現在に至っている。

【九十周年記念誌より】